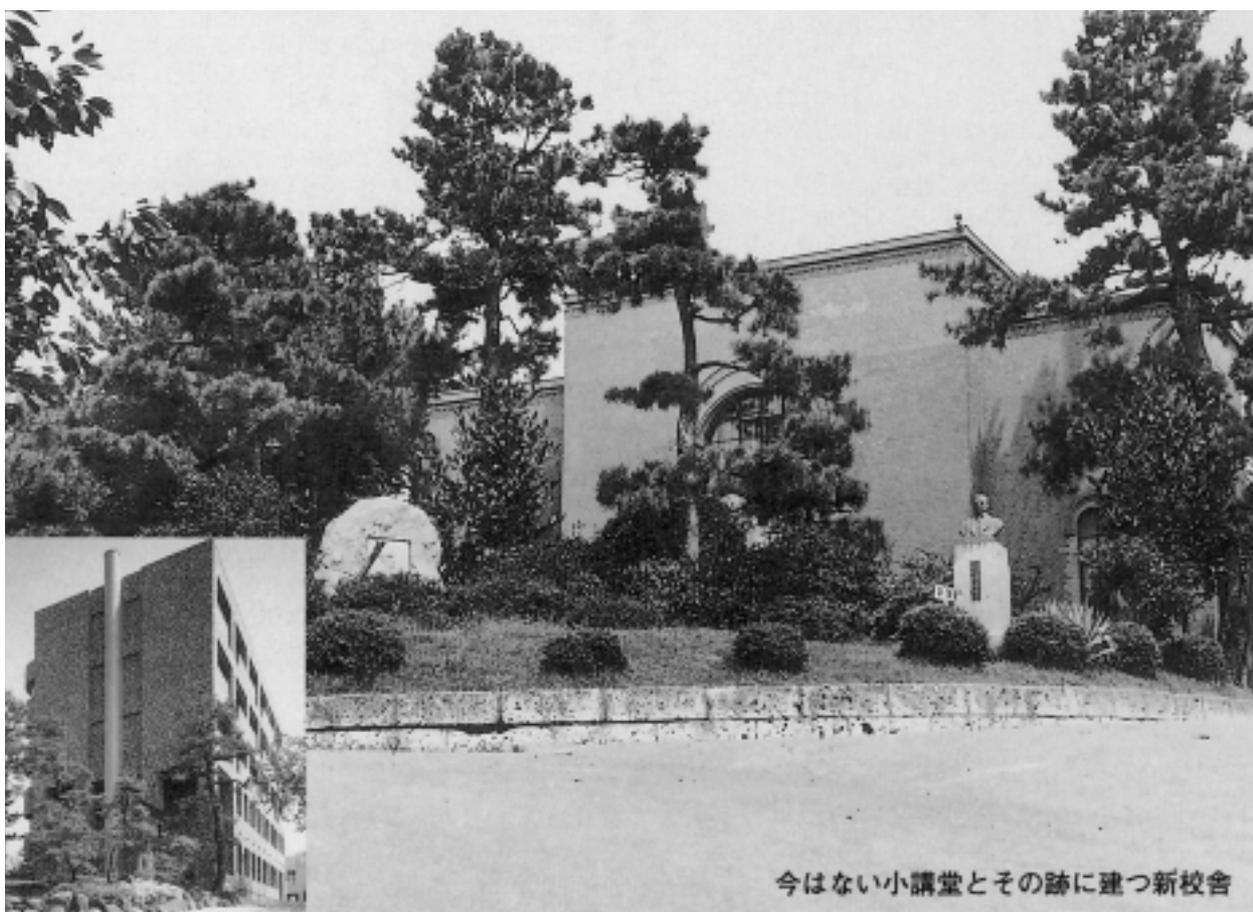




# 銅像山通信 第3号

浅野学園同窓会会報・平成12年 VOL 1

発行日：平成12年4月25日 発行人：浅野学園同窓会



今はない小講堂とその跡に建つ新校舎

## 目次

「母校の繁栄と同窓会の隆盛を願って」	
同窓会副会長・岡本順太郎	... 2
「遙けくも来つるものかな」	
浅野中学・高等学校長・石橋 義史	... 2
平成11年度浅野学園同窓会総会報告	
同窓会副会長・石崎 廣矣	... 3
平成10年度同窓会収支報告・11年度役員一覧	... 3
委員会から（財務・総務・親睦・広報）	..... 4
<b>80周年特集</b> 歴代校長先生と浅野学園の移り変わり	... 5
<b>80周年特集</b> 創立80周年に寄せて	..... 6・7
・「約束」	15期・水谷 勝
・「戦争と共に在った中学生活」	22期・八木柁一郎
・「創立80周年と先見性」	27期・藁科 満治
・「銅像の無い銅像山」	28期・堀 威夫

<b>80周年特集</b>	
インタビュー 飯田徳治先輩にうかがう	... 8
ほやほや会員だより	..... 9
・「陸上部の思い出」	76期・山田 裕
・『『故郷』への回帰』	76期・谷 真如
・「野球が大好き」	77期・小沢 謙介
掲示板	.....10
・同窓会ホームページのご案内	・会報に広告募集!!
・同窓会総会・懇親会のご案内	・同窓会会員名簿発刊のお知らせ
・打越際・入試説明会のご案内	・『80年史』の発刊のお知らせ
・写真資料を探しています	
ご挨拶 責任の重さを胸に	
同窓会副会長・淡路 雅夫	...11
編集後記	.....11
平成12年・大学入試合格者数一覧	.....12

## ご挨拶

母校の繁栄と  
同窓会の隆盛を  
願って

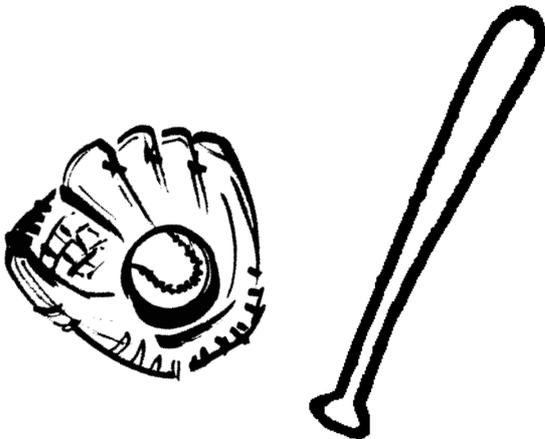
浅野学園同窓会副会長  
岡本 順太郎 (38期)

浅野学園が創立80周年を迎えるこの期に、同窓会の役員の方々と共に、会の発展と母校の隆盛に微力ながら寄与できることは誠に感慨深いものがあります。

平成9年の総会で、同窓会の活性化を企てるべく、活性化委員会の結成が承認されて以来(この委員会は平成11年初めにその役割を終えて解散しました)年々同窓会の組織も充実し、事業も徐々に具体化され、これまで順調に推移してきました。昨年、前会長の石山延雄先生が逝去され、代わって大出俊先輩が新会長にご就任くださり、体制も整った状況となりました。今後は、多くの卒業生の方々と共に有意義なネットワークを構築し、21世紀に向けて好縁社会を整える基盤として、浅野学園の同窓会が位置づけられることを念じています。

私自身が同窓会活動に積極的に参加する意識の根幹は、在校中の学園生活の充実感からくる、友人・恩師との関わりと、母校に対する謝恩の念に外なりません。在校中は野球部に所属し、大きな夢と目標を持って、不備な環境の中であっても練習に明け暮れていました。甲子園出場という目標は達成できませんでしたが、それに向かって挑んだ日々の充実感は大変貴重な思い出として残っており、今でも私の貴重な財産になっています。それ故、長男が浅野中学の入試に合格した時は、大きな喜びを味わうことができました。私と同じく野球部に所属し、6年間青春時代を過ごした息子も平成2年3月に卒業し、今でも浅野時代の友人と親しく交流しています。

時は巡り世は移り変われど、浅野学園が教える基とする“全人教育”が施され、石橋義史校長先生の唱える、“各駅停車の教育”によって育まれた血潮高鳴る若人が、打越の丘より世の大海原に船出されんことを確信しつつ、同窓生諸兄のご協力による益々の母校の繁栄、そして同窓会の更なる隆盛を切に祈念する次第です。

遥けくも  
来つるものかな  
感謝と誓いと

浅野中学・高等学校長  
石橋 義史 (31期)

昭和20(1945)年5月29日のB29による横浜大空襲は、学園の木造校舎をすべて灰燼に帰さしめ、わずかに残ったのは鉄筋コンクリート建ての小講堂と1号館(記念館)だけという惨状でした。グラウンドやその周辺には、あの八角形の油性焼夷弾が垂直に突き刺さったままでした。

私ごとで恐縮ですが、昭和23年、私も新入生に割り当てられたのは、今の図書室のところにあった小講堂でした。そこは急場しのぎの薄っぺらなベニヤ板で3つに仕切られ、絶えず空腹と同居していた180名の坊主頭の教室として使用されました。窓ガラスは一夜にして見事なまでに切り盗られ(当時、ガラスは貴重品でした)雨も風も雪も、時に桜の花びらも、大手を振って侵入をほしきままにしていました。一朝目覚めてみると、グラウンド・ピアノが忽然と姿を消していた、としか言いようのない事件も思い出の小箱に入っています。

一方、12歳の悪戯ざかりたちを叱る先生方の声は、他のクラスにも筒抜けで、いっとき奇妙な静寂が小講堂全体を覆いつくすのでありました。痩せたキュウリやナスやトマトやを収穫!)して大喜びした農業という授業のあったことなど、人糞の臭いととも懐かしく回想されるのです。そうした戦後の混乱に満ちた学園の一時期を、いわば内側から体験し共生しえた者の一人として、来し方行く末に思いをはせるとき、覚える感慨ひとしおなるものを禁じえません。

その間、歴代の理事長、学校長、教職員たちが一丸となった教育にかける情熱の清潔さはもとより、同窓会やPTAの方々のご尽力がもたらしたものの豊かさに、改めて肅然たる思いにとらわれます。同時に終始ご高配をたまわった関係各位に、言い尽くせぬ感謝の微意を捧げるのは、学園にかかわるすべての者たちの快い義務でなくてはなりません。

大正9(1920)年、立志伝中の実業家・浅野總一郎翁による創立以来、日を重ね年を経て、時あたかも80周年を迎えた今日、現場にある私どもに課せられた責務の果てしない重さを痛感します。しかしながら幸いにも、あるいは誇るべきことに、たぎり落ちる情熱に錯われた教師たちに恵まれているのが浅野学園であります。同時に学園は、絶えず理想を高くかけその実現に向って邁進する気概に満ちた生徒たち、自らを切りひらいていこうとする進取の気性に溢れた生徒たち、つねに真善美を追い求める理性と感性とを体現した人間性豊かな生徒たちにも恵まれています。私ども教職員一同は、そうした男たちをさらに輩出し、彼らに1万5千有余人の卒業生たちの後を追ひ、乗り超えていってもらうべく、今に脈々と生きつづけてやまぬ校訓九転十起と愛と和の精神にのっとり、校歌の一節に見る為すべき務めを為すを合言葉に、新しい世紀に向かって、たゆみない確かな歩みを歩んでいきたいと決意を新たにしております。

記念すべきこの佳き日に当たり、ひとこと感謝と誓いを申し述べ、以て関係各位の旧に倍するご後援とご指導をお願いする次第であります。

(『浅野学園80年史』挨拶から)

# 総会報告

## 平成11年度 浅野学園同窓会総会報告

平成11年度「総会議案書」にもとづいて開催された平成11年度浅野学園同窓会総会は平成11年5月29日(土)午後2時より、会員97名の出席を得て、母校浅野学園講堂において、加藤勇治(36期)運営委員総務委員長の司会によって進行された。

開会に先立って司会の発声によって、故前会長石山延雄先生はじめ物故会員のご冥福を祈って黙禱を捧げた後、開会が宣言され議事に入った。

**会長挨拶**(代行)石崎廣矣(15期)副会長 要旨「故前会長石山延雄先生の御葬儀にあたっては、石橋校長先生が葬儀委員長を務められ、同窓会の幹事、運営委員、役員各位の積極的なご奉仕のお陰によってとり行なわれ、同窓会葬と申しても過言ではないほどで、同窓会の面目は十二分に高められましたことは誠に有難く、有志各位のご尽力、ご貢献に対し心から敬意と謝意を表す次第です。なお、ご遺族より七七忌に50万円のご寄付をいただいたことをお知らせします。同窓会の活性化を進めるために前年度より継続されている事業は引き続き実施すると共に、本年度は 母校が来年創立80周年を迎えるので、その対応に力を注ぐこと、新会長のもとに一層団結を強化し、活性化の実を上げることの2点が特筆されますので、会員各位の深いご理解とご協力をお願いし、併せて各位のご健勝とご発展を祈念申し上げます。

### 学校長挨拶

### 議長並びに書記選出

司会より議長に石崎廣矣(15期)副会長、書記に阿藤潔(30期)総務委員が指名され、承認されて、記載された順に審議を開始。

### 第1号議案：「平成10年度事業報告」〔岡本順太郎(38期)副会長報告〕

(1)同窓会の活性化対策として、運営委員の組織化(総務、財務、広報、親睦)の4委員会を設置し、会務を分掌する。幹事会の消息不明幹事について期ごとに対処、検討していただくこと。(2)同窓会に対する理解を一層深めていく方策として、広報活動として(a)同窓会報第2号の発刊、(b)インターネットの設置と同窓会のホームページの開設を行なった。親睦活動として、親睦会を平成10年11月14日(土)午後6時より新横浜プリンスホテルにて開催した。会費増収の努力を重ねる。(3)同窓会名簿(平成10年度追加分)の発行(4)学校支援活動 在校生に対して、(a)卒業式での表彰(同窓会長賞の授与)1名、(b)卒業証書入れホルダー授与(卒業生253名)、(c)進路講演会「前産業能率大学教授吉田昭彦氏」 母校への寄贈(総会時贈呈) 浅野總一郎翁直筆「努力」のレプリカ寄贈 クラブ活動に対する支援活動～クラブ活動のOB指導者に対するお礼(野球部3名、ボクシング部2名、アメリカンフットボール部2名、サッカー部1名)以上を報告、提案し、承認を得る。

### 第2号議案：「平成10年度浅野学園同窓会収支決算報告並びに監査報告」〔川下資文(45期)会計、古川高夫(45期)監事〕

平成10年度浅野学園同窓会収支決算書(別記)について報告、続いて監査の結果適正に処理されていることが報告され、承認を得た。

### 第3号議案：「同窓会規約改正について」〔岡本順太郎(38期)副会長提案〕

浅野学園同窓会規約「第4章 役員 第6条 本会に次の役員を置く。2. 副会長3名(学内教頭、学外2名)」とあるのを「副会長若干名(学内教頭)」と改め、副会長の数を増やして充実したいと提案し、承認される。

### 第4号議案：「平成11年度事業計画案について」〔岡本順太郎(38期)副会長提案〕

前年度より継続する事業は、更に積極的に推進し、活性化を図ると共に学園創立80周年を契機とする記念事業を企画したい。(1)前年度より継続する事業〔幹事会の幹事の見直し(再構成)を検討し、幹事会を充実させる。同窓会に対する理解を深めてもらう事業、(a)広報活動～会報3号の発行、インターネットの宣伝およびホームページの充実、総会案内の新聞掲載。(b)期会の活性化への提言と協力、ホームカミング計画の推進。(c)会費増収の努力、働きかけ。 学校への支援事業、(a)卒業時の表彰と記念品の贈与(同窓会長賞の授与と検討/卒業証書ホルダーの贈与)、(b)クラブ活動への支援。(c)同窓会名簿(平成11年度用)発行。(d)学校への寄付金の贈呈。〕(2)80周年記念事業の企画〔学校への寄付協力、同窓会館の設立の企画、同窓会員名簿の改訂、同窓会誌の編纂着手、厚生活動(例奨学制度、高齢化対策等の検討)、懇親会の開催〕

以上やらなければならないこと、やれることからやると提案、承認される。

### 第5号議案：「平成11年度予算案について」〔川下資文(45期)会計提案〕

平成11年度浅野学園同窓会予算書(案)について提案、承認される。従って(案)を消して、予算書とする。

### 第6号議案：「新会長の選任について」〔岡本順太郎(38期)副会長提案〕

新会長に大出俊(17期)を推薦し、承認される。

なお、石川喜教(31期)前教頭先生の停年退任に伴い、淡路雅夫(40期)新教頭先生が副会長に就任された。

### 第7号議案：「平成11年度役員紹介」〔議長 石崎廣矣(15期)副会長紹介〕

本年度は役員改選期ではないので、別記「役員名簿」を紹介する。大出俊(17期)新会長より母校に対する最後のご奉公のつもりで会長をお引き受けしたのでよろしく頼む、と力強い就任の言葉あり。

以上、全て満場一致で承認され議事を終了する。

最後に司会者加藤勇治(36期)の閉会の挨拶をもって午後3時15分閉会した。

(同窓会副会長 石崎 廣矣(15期))

### 平成10年度 同窓会収支報告

(支出の部)		(収入の部)	
項目	金額	項目	金額
一般管理費	2,367	会費収入	9,266
事業費	3,252	預貯金利息	95
積立金	38,000	雑収入	65
予備費	195	前年度繰越金	37,810
次年度繰越金	3,422		
合計	47,236	合計	47,236

(単位：千円)

### 平成11年度 同窓会役員

期	役割	氏名
17	会長	大出 俊
31	顧問	石橋 義史
15	副会長	石崎 廣矣
38	副会長	岡本 順太郎
40	副会長	淡路 雅夫
45	会計	川下 資文
	会計	岩崎 正樹
45	監事	古川 高夫
53	監事	広瀬 昌治

は在校幹事

# 委員会から

(委員名の表中の太字は委員長、は在校幹事)

**財務** 同窓会会員の皆様には、現在も年会費を絶えることなくお振込みいただいておりますが、今日の厳しい経済状況を考えますと、会員の皆様のご厚志は本当にありがたいことと深く感謝申し上げます。

<b>財務</b>	川下資文
45期	岩崎正樹
53	広瀬昌治

この財務の充実に伴い考えますことは、このご厚志を、同窓会はもとより現役の中高の生徒諸君にとって有益となる事業に役立たせていただくことの速やかな検討であります。同窓会長、校長先生を中心として、各委員会も巻き込んだ活発な討議により、クリエイティブな事業を創案していただき、12年度予算から実施できればと考えております。今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。(45期・川下資文)

**総務** 平成11年度は、各委員会共に同窓会の活性化にご協力いただきましたので、役員会、幹事会、総会の運営が誠にスムーズに運ぶことができました。会員の皆様に心より感謝申し上げます。

<b>総務</b>	加藤勇治	21期	大原恒夫
36期	小野善一	30	阿藤溝賢
17	五十嵐周作	31	横中島賢
18	谷口榮	46	中野浩
18	苅部吉郎	58	大野浩
19			

今年は学園創立80周年を迎え、“記念同窓会会員名簿の発行”と、厚生活動の企画として“奨学金制度の設立”を計画しております。総務委員会もこの計画に力を入れて活動して参りたいと思っておりますので、会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

(36期・加藤勇治)

**親睦** 本年は浅野学園の創立80周年にあたり、学園では6月10日(土)に記念式典が開催されます。同窓会では、その一週間前の6月3日(土)に平成12年度の総会を、一昨年と同じ会場の新横浜プリンスホテルで開催いたします。そして、親睦委員会では、昨年は総会だけで行ないませんでした親睦会を企画しています。卒業年次を超えて一堂に会する唯一の機会ですので、どうぞ多数のご参加をお待ち申し上げます。

<b>親睦</b>	齋藤清紀	40	池田政治
48期	大上山	42	小原沢治
20	上杉政行	48	高橋洋一
29	加藤藤一	48	高橋洋一
30	菜花衛	75	石垣太三郎
36	小池典	45	酒井晴雄
38			

また今回も、一昨年好評でした同期会の紹介コーナーもありますので、この機会に同期会を計画されている期の幹事さんはぜひお知らせください。(48期・齋藤清紀)

**広報** 昨年の6月1日に同窓会のホームページを立ち上げてから今年の3月現在までの9ヵ月余りで、アクセス(閲覧)数は延べで2500を超えています。卒業生約14000人余のうち『銅像山通信』第2号に掲載されたホームページアドレスに目を留めた方は何人おられたかは解りませんが、その中で昨年のインターネット普及率が20%としたら、広報委員会スタッフのアクセス数を差し引いても驚くべき数字といえましょう。広報の活動はペーパーでの『銅像山通信』と、インターネット上のホームページとの2本立てで行なっていますが、今後インターネットの利用が加速的に増加することは想像に難くありません。同窓会ホームページのコンテンツ(内容)を一部紹介しますと、この『銅像山通信』が読めることはもとより、写真のページでは懐かしい旧校舎等を見ることができ、校歌のページでは歌詞を見ながらメロディーも聴くことができます。また同窓生の連絡ページもあり、各期やクラブの連絡に利用されています。名簿の管理は同窓会の重要な活動の一つですが、ホームページに連絡いただいた住所等の変更件数は、この間だけで30名近くになっています。ほかに同窓生個人のホームページへのリンクの申し込みも多く、お褒めや励ましのご意見も多数いただいております。広報委員会としても一層の充実を計る所存です。ますますのご利用をお願いいたします。

<b>広報</b>	古川高夫	55	富田悦生
45期	山口秀男	58	都築淳一
38	佐藤洋輔	46	阿部部義
48	萩原壽昭	52	岩崎浩
48	細野泰彦	58	大野浩
49			

(48期・佐藤洋輔)

インターネット上の“同窓会ホームページ”への多くの同窓生のアクセスは大変喜ばしいことですが、まだまだコンピュータを扱えない同窓生の方々も数多いはずですので、かく言う私もそうであります。活字の『銅像山通信』も引き続き発行してまいります。発行に関わる印刷費に加えて全同窓生への郵送費がかなりの金額になりますので年1回しか発行できないのが現状ですが、斬新な企画を考え、さらに充実した会報作りをめざしますのでご期待ください。ご意見・ご寄稿をお待ちしております。(46期・阿部義広)

## 同窓会年度会費(2,000円)納入のお願い

必ず卒業年とお名前の読みがなをご記入のうえ、同封の振込用紙でお振込みください。また、6月3日(土)の懇親会の受付での現金でのお支払いも申し受けます。

同窓会の収入の大半は、在校生の同窓会費前納という形で賄っており、本来その財政の基本となるべき同窓会員からの納入の比率は、まだまだ低いのが現状です。3頁に挙げました“収支報告”には詳しい支出内訳は記してありませんが、毎年決まって支出される項目だけでも、通信費、通信の印刷費、『会報』の印刷費、現役生徒補助、学校設備補助.....等々、かなりの額にのぼります。同窓会の在るべき運営の形を保つためにも、事情ご賢察のうえ、年度会費納入にご理解とご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

80周年特集

# 歴代校長先生と浅野学園の移り変わり

P T Aの機関紙『広報あさの』56号(平成6年10月発行)の記事を転載させていただきました。

歴代校長先生	社会情勢	学園の主なできごと	学園の施設等
 <b>水崎基一校長</b> 大9 . 4 ↓ 昭12 . 11	大9・1 国際連盟正式発足 10・11 原敬暗殺される 12・9 関東大震災 14・3 ラジオ放送開始 昭6・9 満州事変勃発 7・5 五・一五事件 11・2 二・二六事件	大9・1・20 浅野綜合中学校設置許可 理事長浅野總一郎 4・10 開校式 入学者136名(3学級) 教諭10名 13・4・1 学友会を組織 クラブ活動の発祥 14・3・10 第1回卒業式挙行 卒業生66名 5・1 校内コンクリート工法講習所を開設 現在の浅野工学専門学校の前身 6・22 校歌制定 15・5・24 鉄筋コンクリート建の講堂竣工 昭5・11・9 浅野總一郎逝去 享年83歳 12・8・14 野球部 甲子園出場 11・29 水崎基一校長逝去 享年67歳	大12・9 震災により校舎全壊 浅野總一郎肖像除幕式 13・5 鉄筋コンクリート建の講堂竣工 昭3・4 故浅野夫人記念館落成 4・1 昭和館建設 9・12 隣地を買収 翌年運動場の開設に着手
 <b>神名勉聰校長</b> 昭13 . 7 ↓ 昭42 . 6 ↓ 学園長に 昭42 . 6 ↓ 昭55 . 12	昭15・9 日独伊三国軍事同盟 16・12 太平洋戦争開始 18・10 学徒出陣 22・3 六・三制を実施 23・4 新制高校が発足 24・11 湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞 12 私立学校法制定 25・6 朝鮮戦争勃発 26・4 マッカーサー解任 34・4 皇太子(現天皇)成婚 38・11 国鉄鶴見事故 11 ケネディ暗殺 39・10 東京五輪開催 41・6 ビートルズ来日	昭13・7・29 神名勉聰第2代校長に就任 8・16 野球部2度目の甲子園出場 14・3・27 甲子園選抜大会出場 17・4・18 初空襲を受ける 教職員生徒労働員される 20・5・29 B29空襲により木造校舎全焼失 20・9中旬 授業再開 登校可能な生徒はきわめて少数 22・3・22 新学制により浅野学園中学校を設置 23・3・20 浅野綜合中学校を浅野学園高等学校と改称 定時制高校を併設 8・1 野球部夏の甲子園3度目の出場 24・12 神名校長、県高校野球連盟会長に就任 25・11 校地の一部を駐留軍が高射砲陣地として接収 26・3・6 財団法人から学校法人浅野学園となり浅野学園高校、中学校を浅野高校、中学校と改称 30・12・22 校地の一部の接収解除 35・9・22 創立40周年記念式典を挙行 39・9・26 第1期校舎復興計画完了 42・6・8 神名勉聰学園長に、浜野駿吉第3代校長に就任	昭13・12 東南隣接凹地の山林畑地買収 18・5 浅野總一郎翁肖像供出 21・4 講堂を間仕切りして臨時教室とする 22・1 第1期校舎復興建築開始 27・11 鉄筋科特別教室を建設 32・8 鉄筋2階建中学校舎建設 33・11 總一郎翁の銅像再建 34・7 プール建設 39・9 講堂兼体育館竣工 40・11 球技場竣工
 <b>浜野駿吉校長</b> 昭42 . 6 ↓ 昭53 . 3	昭43・10 川端康成ノーベル文学賞受賞 45・3 日本万国博開幕 47・2 札幌冬季五輪開催 5 沖縄日本に復帰 48・10 第1次石油危機 50・4 ベトナム戦争終結 51・7 田中角栄前首相逮捕 53・8 日中友好平和条約締結	昭45・9・19 創立50周年記念式典を挙行 46・10・1 県愛護林鳥獣保護区に指定される 48・1・26 高校生の制帽着用の自由が許可される 3・27 深夜中学校で火災発生 12 大雨のため部室倒壊 50・12・20 浅野学園総合整備第1期工事完了 53・3・31 浜野駿吉校長退任	昭45・9 理科特別教室1棟、運動部部室建設 食堂開設 格技場竣工 47・1 50・12 管理棟竣工 51・6 食堂の増築工事完了 10 小講堂の改築工事開始
 <b>石山延雄校長</b> 昭53 . 4 ↓ 平1 . 12	昭58・5 日本海中部地震 9 大韓航空機サハリン沖で墜落 60・8 日航機群馬山中に墜落 61・4 チェルノブイリ原発事故 平元・9 ベイブリッジ完成 11 ベルリンの壁崩壊	昭53・4・1 石山延雄第4代校長に就任 55・4・8 「英数クラス」設置 10・11 創立60周年記念式典を挙行 12・17 神名勉聰学園長逝去 享年87歳 56・6・30 鳥獣保護区に指定される(10年間) 61・2・3 中学入試日を2月1日から3日に変更実施 平元・12・22 半コートの着用許可される 12・31 石山延雄校長勇退	昭54・6 校舎周辺の舗装完了 柔剣道場と卓球場全焼 57・5 新格技場竣工 9 硬式テニスコート竣工 60・2 正門改築完了 61・5 小講堂、記念館(昭3完成)内部の解体開始 62・3 新校舎(現中学棟)の受け渡し
 <b>山口敬三校長</b> 平2 . 1 ↓ 平6 . 8	平3・1 湾岸戦争に突入 3・12 ソ連邦崩壊 5・8 細川内閣成立	平2・1・1 山口敬三第5代校長に就任 6・2 創立70周年記念式典を挙行 3・4 中学白肩かけカバンから紺のバッグへ 中学着帽が自由になる 5・7・17 新校舎建築に伴い校長室、事務室、職員室等移転開始 6・2・18 自販機(ジュース等)設置 8・31 山口敬三校長退任	平3・2 多目的コート完成 4・8 体育館改修工事 5・11 新校舎着工
 <b>石橋義史校長</b> 平6 . 9	平6・10 大江健三郎ノーベル文学賞受賞 7・1 阪神・淡路大震災 3 東京地下鉄でサリン事件発生 10・2 第18回冬季五輪長野で開催	平6・9・1 石橋義史第6代校長に就任 7・1・6 山口敬三前校長逝去 享年70歳 2・3 中学入試合格者揭示発表 10・9 高校修学旅行九州に 10・22 新校舎落成式典・祝賀会 平10・1・8 図書館貸出ししバーコード方式に変更 9・5 浅野總一郎生誕150年記念祭(総持寺) 9・13 文化祭に「中学入試相談コーナー」設置 11・3・24 石山延雄元校長逝去 享年85歳 4・8 中学、高校部長職新設 10・4 浜野駿吉元校長逝去 享年93歳 11・9 浅野總一郎70回忌(総持寺) 12・1・20 創立80周年を迎える	平7・7・15 新校舎(現高校棟)竣工 8・10 中学棟にエアコン設置 8・3・31 旧中学校舎を壊した跡地に、第1・2広場完工 8・9 講堂に冷暖房設備完成 9・13 外便所設置(購買部裏) 9・9・1 自転車置場の設置 11・9・15 体育館耐震補強工事 12・3・21 中学棟壁面タイル接着工事

(太字は現存の建物および設備)

80周年特集



# 創立80周年に寄せて



## 約 束



神奈川高等学校野球連盟・元理事長  
元浅野学園保健体育科教諭

水谷 勝

「今学校は、(1)占領軍の経済政策により、財閥の解体で資金の凍結が行なわれ、浅野本家からの支援が全く無くなった。(2)二十年五月の米軍機の空襲で校舎の大半を焼失した。(3)教師が未だに戦地から帰ってきていない。(4)生徒が離散して戻って来ない。以上のような状況で学校再建の目的が立てられない。そこで、最後の残された一策として、あの神名校長が言ったのですよ。『水谷君に学校に残って貰って、野球部を再編して、今一度優勝して甲子園に行つて貰いたい。甲子園に行くか決まれば、卒業生・父兄・浅野の会社関係が一斉に立って応援してくれる。野球部を応援してくれるれば学校復興に繋がる。難しいことは分かっているが、曲げてお願いする』」

私はびっくりして椅子と共に後ろにひっくり返るかと思いました。「学校が危機存亡の窮地に立ち、校長が何とか学校を再建しようとする気持ちは痛いように分かります。しかし、優勝とか甲子園とは素人が考えているほど単純なものではないです。十人ほど遊んでいるような浅野の弱小チームでは論外ですね。こればかりは校長先生の頼みでも私にはお受けすることができません」とお断りしました。それで校長はあとに引きません。「君は浅野に在学中の五年間に、無名の浅野をしり三回も甲子園出場を果たしてくれました。君なら出来る。学校を助けると思つてやってくれ。頼む。此処まで言われると、わたしも元來人の良い方ですから、断り切れずに遂に折れて、では、野球は勝負ですから、夏の大会で試合の結果が出るまでやってみましょう。ただし甲子園を確約は出来ません。遂に神名校長と約束をしたようなしなないような、変な約束をしてしまいました」

翌日十数名の野球部員を集めて事の真相を打ち明けて、「私に協力してくれ。そして如何なる苦しみも如何なる障害も乗り越え、歯を食いしばつてついて来てくれ。将来必ずややつて良かったと思つて日が来るから。俺もやるぞ」と頼みました。甲子園行超特急は鬼の運転手が十人余の部員を乗せて発車したのです。途中下車した者も数人出ましたが、残った部員はよくついて来てくれました。私は戦地帰りの二十七歳の男盛りで、力も有りましたが、その私が練習が終わって足洗い場で気を失つて倒れたことがありました。選手が猛練習で倒れたということは時々聞いたこともありますが、監督が倒れたということは余り聞いたことはありません。どれだけ練習が厳しかったかが想像していただけるでしょう。

数日してグラウンドの上の一般民家の人から学校の事務所に電話が入り、最近夜になると真つ暗な教室にロソクの花が見えるのですよ。多分浮浪者でしょう。危ないから気を付けた方がいいですよ。私もとうとう浮浪者にされてしまいました。そして一年 夢が幻か、十人の弱小チームで優勝してしまつたのです。(15期)

本年1月20日(木) 浅野学園は創立80周年を迎え、その卒業生も15,000人を超えました。現在、神奈川県だけでなく全国的にもその名の知られる私立学校として高い評価を受ける学園を誇らしく思うと同時に、80年という長い歳月、学園に関わつた多くの先生方や同窓生が積み重ねてこられた有形無形の事跡に思いを致しております。今回この学園80周年の会報の企画に、各界の一線で活躍されている諸先輩に原稿をお寄せいただきました。

## 戦争と共に在った中学生生活

劇作家 八木 柀一郎(伸一)



わたしの母校は、旧制の浅野総合中学。総合とは普通科目のほかにも工農なども重視する総合教育という意味で、この方針は昨今の風潮を先どりしていたと思うのだが、わたし達二十二期生の入学は昭和十六年四月。十二月には太平洋戦争がはじまり、それからの四年間は日本の超国家主義・軍国主義の現実をもろにかぶる。いわば歴史的な総合教育を受けた期間ではあつた。わたし達は昭和二十年、つまり敗戦の年までの中学生生活を、戦争と共に、戦争に行つて死ぬまでの準備期間として送つたと言つても過言ではない。現役配属将校と予備役の軍人教師による軍事教練は最重要科目であり、中三からわたし達は本物の騎兵銃を持たされ、富士山麓での兵舎合宿は日本陸軍の戦闘演習そのものを踏襲していた。わたしはその時小隊長を命じられ、サーベルを手にしてクラス全員を指揮するのが結構楽しかつた。そう、わたしは完璧な軍国少年として成長しながら、一方でクラスで一番になりたいと願う勉強好きの中学生だつた。中三の途中までは、のちのプロ野球の名選手飯田徳治が主将をつとめる野球部にも入つていたし、組に数人は必ずいる不良の仲間とも適当につき合つていた。少なくとも主観的には、進学や大人になつてからの将来を気にせずにはすむ純粋で充実した中学生生活だつたと言えらると思う。だが、いま振り返ると、その生活は二度とないであろう特殊なものだつた。

昭和十九年、四年生になると同時に、学校の授業は一切なくなり、一年を通じて勤労動員先へ通ふことになる。中学生をやめさせられて少年労働者になつたわけだが、クラスごと組がひとつの工場に配属されたので、それなりに中学生としての感じはつづいた。勉強が嫌いな者は逆に喜んでに相違ない。わたし達四年組の通勤先は、川崎にある有名なレコード会社「コロムビア」の工場だつた。本業のレコードを細々とまだプレスしてはいたが、工場の大半は陸海軍の航空機部品の製造工場に成り変わり、適性検査をうけて中学生達はそれぞれ旋盤工や検査係や組立工の見習になつた。しかしさいわいなことに、もともとコロムビアレコードだから、構内にはかなり文化的雰囲気がある。図書室やレコードライブラリーもあつて、わたしは自分から企画して週に一度昼休みにレコードコンサートを開き、怪しげな知識ながらモーツァルトやベートーヴェンの解説を買って出たりしたものだつた。敗戦の色が濃くなり、川崎の町は空襲で焼野原、航空機部品の材料も途絶えがちになると仕事もひまになり、わたしは親友のMとNに相談して雑誌をつくることを思い立ち、事務所の地下に死蔵されていたワラ半紙と謄写版を勝手に持ち出し、何人かに原稿を書かせ、自分も小説まがいの文章を書いて「打越」という部厚い雑誌を作り上げた。残念ながらその雑誌、今は一冊も残っていない。

昭和二十年三月、二十二期生は四年で強制的に卒業。しかし卒業式などはなく、免状ももらつていない。もしかししたらもうたつたのかも知れないがまったく憶えがない。そしてわたし達はばらばらにコロムビアの工場へ行って行つた。まだ戦争がつづいてた。わたしは旧制山形高校に合格したものの、山形へ行つたのは七月の末だつた。それも学校ではなく、勤労動員先の羽黒山へ直行した。そこで海軍の兵隊や相撲とりと一緒に松の根っこを掘つておもちに戦争が終つた。戦争に負けても自分が生きていくことがどうにも思つていなかった。五歳年下の弟がやはり浅野に入学し野球部で活躍するようになった頃、やつとわたしは戦後の現実に馴染み出し、劇作の道を歩きはじめた。(22期)

## 創立八十周年と先見性

参議院議員 藁 科 満 治



本年、母校が創立八十周年を迎えることになった。この八十歳の歳月、大正時代を入口にして、第一次、そして第二次世界大戦をはさんだ昭和・平成時代に連なる、いわば、わが国二十世紀史の断面と重なるものと見ることが出来る。

一九九五年七月、私は新校舎の落成式に参列し、校舎の偉容と近代的な諸施設に目をみはる思いであつた。しかし、同時に私は、一九二〇年(大正九年)浅野総合中学が子安の地に誕生して以降、営々と重ねてきた年輪の重みを思い出さずにはいられなかつた。格別、一九二三年の関東大震災による校舎の倒壊と、一九四五年の大空襲による校舎全焼という、筆舌に尽くせぬ大災難を乗り越えて、今日の輝ける発展につなげてこられた歴史を、今日の輝ける発展に「先見性」を対し、改めて深甚なる感謝と敬意の念を表したいと思つた。本年二〇〇〇年は、千内期と百年期の二重の世紀末にあたる。時代は国内外にわたつて大きく変わり、政治、経済、社会、文化など各方面にわたつて、旧来のシステムを改革すべき必要に迫られて、旧来の大きな節目の年に、母校が八十周年を迎えたことは、偶然のめぐり合わせとはいえず、誠に意義深いことである。

一昨年の四月、桜に囲まれた銅像の丘で、創始者「浅野總一郎翁の誕生百五十周年」を記念する会が、ご遺族参列のもと盛大に行なわれた。私はその末席にいて、出席者より創始者の想い出や逸話を聞く機会に恵まれたが、浅野總一郎翁は何よりも「先見性」に富んだ人であつたことを再確認した。

母校の八十周年を契機に、過去の資産の重みを噛みしめ、一方で二十一世紀を見据えて「先見性」ということを改めて考えてみることも、決して無駄ではないと思つた。(27期)

## 銅像の無い銅像山

ホリプロ会長 堀 威 夫



昭和二十年四月、浅野中学校に入学しました。太平洋戦争は益々熾烈を極め、B29の度重なる空襲の中の通学はなかなか大変でした。それでも国民学校(現小学校)を卒業し、やつと大人の仲間入りが出来たという満足感一杯で、どうも当時、大人と子供の線引きは小学生と中学生の間に有つたように思われます。と申すのは、両親共横浜生れの関係で、田舎の無い私は箱根に集団疎開(学校全体で)をさせられていました。しかし、三月卒業と同時に町に戻され、「中学生として、お国の為に役立つように」と言われた事を思い出します。

当時、浅野總一郎翁の銅像は、軍部の徴発により既に無く、台座だけの奇妙な銅像山でした。山の中復には幾つも横穴が掘られ、確か、高射砲隊が陣取つていたと思ひます。殆んど授業らしいものは無く、軍事教練と勤労奉仕という名の娯楽掘りに終始した毎日でした。やがて五月二十九日の横浜大空襲、学校は勿論の事、横浜の町は一瞬にして焼けただれた廃墟となつてしまいました。当然の事ながら学校は休校となりました。その後、進駐軍による行政の回復は、町にそれなりの平静をもたらさし、そんな中、復学する事になりました。コンクリートの外枠だけが残つた校舎は、窓ガラスとて無い、それは粗末なものでした。それでも平和な明るさは、昨日迄の燈火管制から開放され、チョッピリ未来に夢が持てる雰囲気が出て来ました。兵隊達の居なくなつた銅像山は依然として主無きまま。それでも放課後の一刻、談論風発、大いに青春の夢を語り合つた場所が銅像山でした。

尋常小学校に入り国民学校を卒業、旧制中学校に入り新制中学校の第一期卒業生。まさに時代の波に翻弄され続けた青春前期。でも貧しいなりに楽しい思い出一杯の銅像山と学園。ミレニアムに八十周年を迎え、益々明るい未来に乾杯!!(28期)



80周年特集

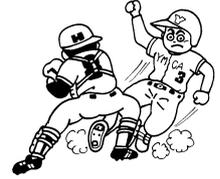
2度の甲子園、そしてプロ野球

インタビュー

飯田徳治先輩(18期)にうかがう



日時:平成12年3月19日(日)
場所:飯田徳治氏ご自宅
聞き手:菜花 衛(36期)
古川 高夫(45期・広報委員)
録音:都築 淳一(58期・広報委員)



古川 浅野に入学されたのは?
飯田 昭和12年。
古川 中学入学と同時にすぐ野球部に入られたのですか?
飯田 そうだよ。小学校の頃から野球部に入るべしとたきつけられていたんだらうな。丁度グラウンドができた年だよ。それまでは今の工学専門学校があるあたりに広場があって、そこで基礎練習をし、そこからネットや道具を担いで子安小学校の方まで毎日練習をしに行つたもんだよ。
古川 その当時は野球部はかなり強かつたんですか?
飯田 結構強かつたんだよ。でもその頃は、神奈川県で勝つてもすぐ甲子園には行けず、「甲信越大会」というのに勝たないといけなかつた。それと当時はY校に「大橋」という大きな投手がいてかなり強くて、浅野はなかなか甲子園に行けなかつたんだ。
それから「甲信越」から「南関東大会」に変わった頃、「イチチャン」(増田先生)が浅野の名前を売り出すにはどうしたらいいか考えて、それには野球部を強くするのが一番手取り早いということで、3年計画で水谷さん・山本さんや佐々木兄弟たちを入学させて見事甲子園に行つたんだ。当時は「浅野中学」といえば有名で、九州からきた人にも「あの銅像のあるところですか」を言われるほどだったんだ。あの当時は本当に野球が強く有名だったんだ。
古川 先輩は甲子園には何回行かれたんですか?
飯田 あれは私が2年生の時だから昭和13年の夏に行つて、2試合目で平安中学校に負けたのかな?(この年優勝したのが平安中学校です)それと、翌14年の春の大会。
古川 その頃の先生方は憶えていらっしゃいますか?
飯田 増田先生と、あとは同社社からきた水崎先生が校長で、その後神名先生が校長になられて。
古川 ほかに思い出に残る先生はいましたか?
飯田 顔は憶えているけれども名前がなかなか出てこなくて...。「イチチャン」(増田先生)が数学で、あとは「オオダル」「コダル」とかね。みんなニックネームがついていたよ。
古川 浅野は伝統ですね、先生にニックネームをつけるのは、「イチチャン」というのは?
飯田 増田一郎、一郎で「イチチャン」。「オオダル」「コダル」というのは体育を教えたり、朝礼で挨拶をしたりしていたっけな。
古川 先輩が在学されていた頃に思い出に残ることはありましたか?
飯田 戦争中で何にしてもとにかくひどい時代だったよ。なんでもかんでも「軍隊、軍隊」でね、教官が2人も3人もいたりして、私が浅野にいたのが、12年から17年だから丁度戦争が始まった頃だね。何とかいう将校も雇われていたな。12年に支那事変があって、アメリカと戦争が始まって、そりゃ戦闘状態に入るとはりきつたもんだよ。よ~しやつつけちゃえってなもんでね。ただけどそりゃ~無理だよな。考えてみればどかい国を相手にポチポチ何か作つたって勝つてこないよ。それに、一に教練、二に教練ということで、勉強よりも教練という時代だからね。
古川 それでは当然、練習もほとんどできない状態ですか?
飯田 そうだよ。向こうへ行つてなもんだよ。教官がね。
古川 グラウンドもほとんど教練で使われていたわけですね。
飯田 そうそう。
古川 でも、その少ない練習量でよく甲子園に行けましたね。
飯田 強かつたんだよ。水谷・村上・山本・佐々木・谷島・斎藤とかね。とにかく強かつたよ、斎藤みたいに肩の強い人は今の中学生ではないいな。
古川 当時は部員は何人くらいいたんですか?
飯田 15、6人じゃないかな。40人も50人もいないよ。毎日毎日1時間以上もバッティング投手をやらされてね、でもそのおかげで肩が強かつたんだらうな。打球がぶつつかつても、汗をいくらかいても1時間も1時間半も替われなんて言ってくれなかつたからね。コーチがいたわけでもないし、誰も教えてくれる人はいなかつたしね。
古川 今の浅野はだいぶカラーも変わつて進学校になっているんですが?
飯田 そうだね、名前が売れてからはだんだんと勉強の方に傾いていったんだね。
古川 今の浅野の生徒に何か感じたり、おっしゃりたいことはありますか?
飯田 最近あまり外に出なくなつたので分からないけど、おとなしいんで

しょ。今の中学生は考え方がぜんぜん違つてから想像がつかないよ。
古川 先日委員会のときにある先生が言つてましたが、昔は授業のときに体罰もあったが、今はそうできないので諭すようにすると逆に生徒から理屈で反撃してくるそうです。
飯田 今は難しいね。昔は「これをやれ」なんて殴られるのが普通だったのに。英語で「ちんころ」という越川先生がいて、そっぽ向いてると耳をひっぱられて頭をカーンと殴られたりしてね。痛かつたな~。また、銅像山に田中先生という剣道7・8段のものすごい強い人がご夫婦と息子さんと住んでいらしてね。立派な人だね。ちょっと竹刀を動かしただけで横に人が転がっていたよ。
古川 銅像山といえば一時期戦争で銅像が撤去されたか国に寄付されたという話を聞いたのですが?
飯田 俺は知らないんだよ。でも、そんなことをして鉄砲の弾に換えたところでたかが知れているのにな。いい山だったけどな。今の方がきれいなんだらうな。
菜花 今は植木がどんどん育つて大きくなって、下のほうから銅像が見えなくなつてきているんですよ。昔は下の道路から銅像が全部見えなのに、今は頭しか見えません。
飯田 銅像山を降りた谷のところに井戸があってね、夏の練習のときに井戸から水を汲んでグラウンドに水をまくんだけれども、すぐに乾いてしまつてね、大変だったな。
菜花 戦争が終わつて、木村さんという先輩が学校に来て階段の上から練習を見ていたら、当時の飛ばないボールでレフトの場外へポンポン飛ばしていた選手がいて、すごいのがいるなと思ったのが飯田さんだったそうです。
飯田 そんな話も聞いたことがあるな。先輩からもものすごい怖い木村さんという人がいて聞いていたけど、わしらには恐ろしくなかつたけどな。昔は飛ばないボールだったから大変だったな。今みたいにちょっと当てれば飛んでいく時代じゃないし、金属バットだからつまつても外野に飛ぶしね。イチローが今春のオープン戦で7割打つているけど、7割なんて想像もつかないな。昔は3割をどう打つとか思っていたのに。
古川 プロ野球連続出場記録歴代2位というすごい記録をお持ちですが...
飯田 衣笠のときより、いろいろと状況がひどかつたからね。メンが食えなかつたし、遠征の移動時にも交通の便が悪かつたし。通常は三等車だよ、二等車なんか乗ろうものなら会社から請求書がきて給料から引かれるんだから。
古川 お話は聞きませんが、最後に同窓会について何かご希望とかはございますか。今まではあまり活動も無かつたのですが、これからは、といろいろと動き出しているところでして。
飯田 たえば、若乃花や貴乃花が優勝したときなど、中野中学でまわしを作つたりしてやつたりしているけれども、浅野の同窓会でも大出さんが郵政大臣になつたときにもっと盛大にお祝いをしたりとかさ、あつてもよかつたよ。下駄をはいて、マントをはおつていたあの大臣さんが大臣だよ。これだけ優秀な浅野なんだから、これからどんな立派な人が出てくるか分からないんだから、そういうときくらい母校や同窓会として何かしてあげないとな。
古川 長い時間ありがとうございました。またの機会にお話の続きをぜひ聞かせていただきたいと思います。ますますお元気で過ごしてください。

飯田徳治氏球歴

- 浅野綜合中学在学中、野球部の中心選手として甲子園大会に2度出場(昭和13年夏、14年春)
卒業後、プロ野球の選手・監督として活躍(南海ホークス 国鉄スワローズ/サンケイアトムズ監督)
【バ・リーグ打点王 2回 セ・リーグ盗塁王 1回
バ・リーグMVP 1回 バ・リーグベストナイン 5回】
連続試合出場記録 1246試合(歴代2位)
・昭和56年 野球殿堂入り

(注)紙幅の関係で、インタビューはその一部しか掲載できませんでしたが、ご諒解ください。

## 会員だより

## ほやほや会員だより

## 陸上部の思い出

## 充実した学園生活

山田 裕 (76期)

在学中の思い出として一番よく思い出される部活動のことについて少し書こうと思います。

私は中学、高校と陸上部に在籍していました。毎日放課後になるとグラウンドや遅刻坂、銅像山、学校のそばの杉山神社や総持寺などで練習をしていました。毎日の練習メニューは自分たちで決めていました。練習の目的を考えてメニューを立てることにより目的意識をもって練習に取り組む効果があった、と今になって思います。自分の意志ですることは、人に言われてすることよりもはるかに効率が高いと6いうことを大学受験のときにも実感しました。

また練習以外でも、レクリエーションとしてサッカーやバスケットボールなどをしていました。夏期休暇中はプールに入って、泳いだり水球をしたりして遊んでいました。無断でプールに入ると叱られるということもしばしばありました。

こうして考えてみると、毎日、朝起きて学校へ行き、授業中は休憩(?)し、放課後になると部活に励み、家に帰ると遊んで寝るといった、勉強はまったくやらない完全に部活動中心の学園生活をしていただと思います。その部活動のお陰で非常に生活は充実していましたし、陸上のことだけでなく、机に向かっていただけでは得られない多くのことを学ぶことができました。

今でも、陸上部の合宿に参加させてもらったり試合を見に行ったりと、私の生活の中でも大きな位置を占めています。

もし陸上部に入っていなかったら、私の生活はまったく違ったものになっていたでしょう。大学生活や社会に出てからでもたぶん同じことが言えると思いますが、何か部活動などの自分と同じ趣味を持つ人がいる団体に入ることは、人間の成長にとって重要なことのように思えます。

同窓会一年生として、浅野学園と同窓会が今後ますますの発展をされるよう期待しております。

(平成11年3月卒業)

## 野球が大好き

## 好きこそ上達の近道

小沢 謙介 (77期)

私の浅野での思い出は高校野球部での3年間です。大学受験は奇跡的に現役で合格することができましたが、浅野という進学校在籍していたにも関わらず、受験半年前までまったく勉強せずに野球だけの生活をしていました。そして、今自分が思うのは、たとえ今年受験に失敗したとしても、もっと勉強すべきだったと多少悔やむことはあったとしても、野球に打ち込んだ高校生活は本当に満足のいくものでした。

私は野球が大好きです。ただ好きだからといって3年間の高校野球生活が全てが楽しかったというわけでもありません。毎日毎日一緒に練習していればチーム内でもめることもあり、また自分自身として結果が出せなかったり、自分のミスでチームが負けたりと、苦しんだことも多くありました。また最後の夏の大会で9回裏逆転負けという、小学校から野球をやってきたなかで一番の悔やしい思い出もしました。けれども全体を通して見れば、最高のチームメイト・先輩・後輩に恵まれ、本当によい3年間だったと思います。

野球に関わるだけでなく全てにおいて好きな言葉に、野村克也氏の「好きこそものの上手ではなく、好きこそ上達の近道」という一言です。自分より野球の技術が上の人は山ほどいます。その中には努力によって追いつくことができないほどのレベルの人もいます。ただ好きだからといってそのような高いレベルになることができるとは限りませんが、好きであれば、たとえわずかでも上達できると信じています。それに加え自分がいつも考えることは、自分は完璧な人間ではありませんし、全てに100パーセントの力をつぎ込むのは無理ですから、サボることもあると思います。ただ自分の好きなもの 今の自分にとっては野球ですが これだけには嘘をつきたくありません。常に正直でありたいと思います。自分は野球が好きという点ではだれにも負けたくはありません。これから大学に入り、社会へと人生は続いていきますが、今後は、野球に限らず何か一つでも人に負けたくない意識を持ちつづけたいと思います。現に嫌でたまらなかつた受験勉強をたった半年でやりこなせたのは、ただ野球がやりたいという気持ちゆえだったと思います。

最後に、浅野での生活の中で、自分は勉強では立派なことが言える立場ではありませんので、野球のことだけ書きましたが、野球だけの高校生活なんて他の人にすればアホに見えるかもしれませんが、最高に楽しい学校、というか部活でした。今でもチームメイトは自分にとって最高の友達です。大学では野球を続けるつもりですが、勉強の方もしっかり頑張ろうと思っています。

(平成12年3月卒業)

## 「故郷」への回帰

## イイヒトということ

谷 真如 (76期)

「世の中には故郷にたえず引き戻される人もいるし、逆にそこにはもう戻ることができなと感じ続ける人もいる」 ある作家の言葉だが、これを私は自分なりに了解している。あくまで抽象的なところの問題として。そして、こと浅野学園という「故郷」に関して私は後者に属する人間のようなのだ。

浅野を卒業してはや1年が経ち、大学での生活が私にもたらした最も大きな変化、それは人間関係のあり方であった。浅野在学時代、JRC(青少年赤十字)にいた私はよく「いい人」であろうとした。たとえ馬鹿だ、偽善者だと言われようと、いい人を貫くのが正しいことだと思っていた。しかし正直に言おう、結果として私は人間関係に疲れてしまったのだ。

いい人は周りの人から好かれるような気がするが、実は違う。いい人ほど嫌われる。本当にいい人になりたいか、それとも本当は誉められることを望んでいるのかで違うのだ。私達は悪口を言われたいために一生懸命いい人になろうと思う。誉められるため、嫌われたいためにいい人になろうと思う、その人は必ずつらくなる。自分の気持ちが続かなくなってくるからだ。

たとえば夜中に電話があつて悩みの相談をされたとする。明日の朝は早いし、今日はバイトで疲れているが、長い悩みの相談にのってあげる。そうして毎晩毎晩、相談に付き合っていたが、どうしてもしなければならぬレポートがあつた。「ごめん、朝までに仕上げなくちゃいけないから、また明日電話する」と言ったら、相手に「裏切られた」と言われてしまった。果たしてこれは裏切りなのだろうか。相手は私がいい人であることを期待しているから、私は永遠にいい人であり続けなければいけなくなりました。最初は自分に無理をして毎晩毎晩相談に付き合っていたのに、たった一日相談にのれなかつただけでいい人から裏切り者に転落してしまう。それは私が急に冷たくなつたのではなく、ただ限界にきてしまったというだけである。

浅野在学時代の私は人に嫌われるのがほんとうに怖かつた。無論、怖いのは今も同じである。ただ、無理にいい人になることだけは絶対にしない。してはならない。それが最後には自分も相手も傷つけると知っているからだ。だから私にとっての浅野学園は、苦しみ続けた過去の影を映す、決して戻ることができない「故郷」なのである。

(平成11年3月卒業)

# 掲 示 板

同期会の案内、その他同窓会員への広報を目的とした お知らせ を掲載ご希望の方は  
原稿をお寄せください。〔浅野中学・高等学校 阿部義広まで T E L 045 (421) 3281  
F A X 045 (421) 4080 〕

## No. 1 浅野学園同窓会ホームページ

平成11年6月より運用中！（アクセス数2000を超えました）

<http://www.alles.or.jp/asanodou/>

同期会、クラブ活動OB会など積極的にご活用ください。  
名簿登録データの更新も行なえます。  
個人のホームページへのリンクも行なっております。



## No. 2 同窓会報に広告募集!!

次号(第4号)より本『銅像山通信』では、下記の条件で広告掲載を予定しております。  
広告掲載ご希望の方は、上記、阿部(同窓会広報担当)までご連絡ください。

1区画：タテ5.5cm x ヨコ6.0cm  
料 金：1区画、3,000円  
写真(モノクロ印刷)掲載可

発 行：年1回 5月初め  
部 数：約14,000部以上  
(全同窓会員に郵送いたします)

## No. 3 平成12年度

### 浅野学園同窓会 総会 懇親会 のご案内

- ・日時 6月3日(土) 総会 午後5時30分～  
懇親会 午後6時30分～
- ・会場 新横浜プリンスホテル
- ・詳細は、本会報と同封の案内状をご覧ください。

## No. 4 同窓会会員名簿の発刊

同窓会では、学園の80周年に合わせて『同窓会会員名簿』(ハードカバー・A4版 約500頁)を、12月に発刊する予定です。郵便番号7桁ほか、さらに判明した住所も多く掲載しています。多数のお申し込みをお待ちしております。1冊 3,600円。

近々、住所の調査書がお手元に届くかと思いますが、ご協力をよろしくお願い申し上げます。なお、担当の印刷業者は「廣濟堂」ですので、その他の勧誘にはくれぐれもご注意ください。  
ご友人で、住所の変わった方、物故された方をご存じでしたら、調査書でお知らせください。

## No. 5(学校より) 《平成12年度の主な学校行事》

### 打越祭

- 第1部文化祭...9月16日(土)、17日(日)  
(雨天実施)
- 第2部体育祭...10月1日(日)  
(雨天順延)

### 中学入試説明会(一般対象)

- 会 場：浅野学園体育館または講堂
- 第1回.....10月21日(土)14:00～15:30
- 第2回.....11月4日(土)14:00～15:30
- 詳細は学校にお問い合わせください。

## No. 6(学校より)

### 『80年史』(B5版、約350頁) 発刊

ご希望の方には1冊3,000円(予価)でお頒けいたします。『60年史』(3,000円)『70年史』(2,500円)の残部もまだ少々ございます。

申込先...浅野中学・高等学校 岩崎泉(国語科)まで

## No. 7(学校より) 写真資料を探しています!!

本年6月の80周年記念式典へ向けて、写真収集係としてはこの2年間、戦前の学園のキャンパスの状態がわかる写真や新子安・生麦周辺の写真を探してまいりました。しかし、当時個人で写真機を持っていらっしゃる方は少なく、数えるほどの枚数しか収集できませんでした。

少ない写真の中から、何枚かを同窓会ホームページに掲載したいと存じます。また、80周年を越えても、貴重な写真資料の収集・デジタル化しての保存等を継続実施したいと考えております。戦前に限らず学園関係・学園周辺の貴重な写真をお持ちの方がいらっしゃいましたら、是非ご連絡をいただきたく存じます。

ご協力のほど宜しくお願いいたします。

《創立80周年記念事業[準備小委員会・写真収集係]より》

連絡先...浅野中学・高等学校 田中 政幸(英語科)・佐々木繁春(国語科)まで

## ご挨拶 --- 責任の重さを胸に ---



浅野学園同窓会副会長 淡路 雅夫(40期)

私が浅野中学・高校時代を過ごした時の校長先生は神名勉聰先生でした。卒業生が集まる折などでも、生徒を心から愛した先生のエピソードにはこと欠きません。私は、浅野学園で教師生活を始めて今年で30年になりますが、その間、今は亡き村上栄一先生や盛長海先生をはじめ、大変多くの先生方に助言や指導をいただいて今日を迎えています。

石橋校長先生から教頭のお話をいただいた時、教頭という責任の重さは勿論のことですが、先輩の先生方が、常に生徒を愛して浅野を育ててこられたことへの感謝の念と、後に続く者の責任とが脳裏をよぎりました。現在、浅野学園で生徒の指導に関わっている者として当然のことながら、先生方とともに校長先生をバックアップし、学園の一層の発展に努力したいという思いで、教頭の任をお引き上げる決意をした次第です。よろしくご鞭撻ください。

今年も、3月10日に273名の卒業生が学園を巣立ち、同窓の仲間入りをしました。在学中も多くの先輩方のご援助やご指導をいただきましたが、若い卒業生のこと、これからいろいろな場面で諸先輩の引き回しが必要かと思えます。幸いに、浅野学園の同窓会も大出俊新会長を中心にますますの活性化が図られようとしています。例えば、役員会の中に新設された広報部では、長いこと懸案であった「同窓会会報」が毎年発行されるようになり、また、比較的若い同窓のご尽力でインターネットを設置し、同窓会のホームページの開設というところまでできました。これからの社会に要求されることは、人のつながり、すなわち仲間のコミュニケーションづくりが大切になるのではないのでしょうか。そういう意味でも、現在1万4千名を超える浅野学園の「同窓のネットワークづくり」が実現できないものかと、役員が集まるとよく話題になるところです。

新体制の役員会の活動の日々の浅いにもかかわらず、会議の度に役員各位の夢は大きく膨らんでいくように感じます。私たち在校の役員も多くの同窓との対話を持ちながら、ますますの同窓会の発展のために寄与する覚悟であります。今後の同窓の皆さんのご協力をお願いし、ご挨拶に代えたいと思います。

(浅野中学・高等学校教頭)

## 編集後記

『銅像山通信』第3号は、学園の創立80周年ということで、80周年の特集企画に前号の8頁から12頁とページを増やして、(1)歴代校長先生と学園の移り変りの年表、(2)古い同窓生の戦前戦中の貴重な古い思い出の記や思い出話、を掲載いたしました。別頁に置きました卒業したての同窓生のほやほやの思い出話と比べつつ、時代の異相を感じ取ってもらおうという工夫を汲み取っていただければ、と思います。

原稿を整理しながら、我々の知らない時代、学園の様子に心驚かせました。今では知り得ない 戦火で焼かれて学校にはほとんど古い資料がないのです(嗚呼!) 貴重な思い出のお話は、80周年を迎えた現在の学園にとっては、その歴史を教えてくれる貴重な史料でもあります。お忙しい中、原稿をお寄せいただいた先輩諸兄に心より感謝を捧げたいと思います。本当にありがとうございました。今後も、多くの方々からの寄稿、史料の提供をお待ちしております。

同窓会広報委員会 古川 高夫(45期)  
阿部 義広(46期)

## 『銅像山通信』・第3号

発行日 平成12年4月25日(火)

発行人 浅野学園同窓会  
代表 大出 俊

発行所 ㊟221-0012  
横浜市神奈川区子安台1-3-1  
浅野中学・高等学校  
TEL 045-421-3281  
FAX 045-421-4080

編集 浅野学園同窓会広報委員会

印刷 ㊟105-0014  
港区芝3-4-12 2F  
(株)廣濟堂 東京営業所  
TEL 03-5442-0371

